

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	恵の実「ホップくん」		
○保護者評価実施期間	2024年12月28日		～ 2025年 1月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1 2世帯	(回答者数) 1 2世帯
○従業者評価実施期間	2024年12月28日		～ 2025年 1月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・恵の実保育園と交流保育を行い、仲間を感じ、仲間のやっていることに興味を持てるように、生活・遊びの空間をともにすることで、人や遊びへの興味関心を引き出すインクルーシブな保育を実践することができる環境にある。 ・同年齢の仲間だけではなく、発達の近い仲間や、自分よりも小さいお友達との関りも大切にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろんな仲間とやり取りする中で、自分の思い通りにいくことばかりではないことも経験できるように見守り、間合いをとったり、大人や仲間の支えを受けることで、折り合いをつけたり、困ったときは相談したら大丈夫だと感じる経験を積み重ねている。 ・お子さんの発達や活動の内容によって、個別や小集団で取り組みを行ったり、静かで落ち着ける環境を整えて活動するなど工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・恵の実保育園の職員と情報を共有したり、連携していくことが大切になる。それぞれの子どもの様子を共有しながら、日常生活や活動において大切にしたいことをともに考え合っていく。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期に大切に育てたい土台の力（食べる・寝る・排せつ）をはぐくみ、生活リズムを整えていくことを大切にしている。 ・家庭での生活について情報を共有し、困っていることについて一緒に考えたり、事業所で気になる様子がある時にはご家族と一緒に原因を考え、改善策を提案している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やり取りノート（連絡ノート）を用い、家庭での様子の把握に努めており、気になる様子がある時には、生活の様子から分析し、ご家族と話し合える機会を設けるようにしている。 ・面談時や茶話会で、資料を用いたりしながら生活リズムの大切さを一緒に学ぶようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家庭での困りごとに対して、職員とともに話し合い、学び合うと同時に、茶話会やクラス会、学習会を通して、それぞれのお子さんの悩みや不安についておしゃべりしあうことで、「うちもそうだな」と共感したり、「自分だけじゃないんだ」と安心できる場を提供していく。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・広い園庭や近くにある赤塚山公園など、恵まれた環境を利用して、外遊びやお散歩などで活発に戸外で身体を動かすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お散歩では、平坦な道ばかりではなく、階段や斜面を上り下りして、目で見て考えて身体を動かすことを大切にしている。 ・木の根っこなどが浮き出た小径を散歩し、躓いたり転んだりもしながら、足元に注意を払うことを身体で覚えることも大切にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数で自然を楽しみながらゆっくり歩く散歩、「〇〇を探しに行こう」など目的をもって長い距離を往くことなど、大切にしたいことに合わせてグループ編成やコースの充実を図っていく。 ・散歩が好きになり、「いきたい！」意欲を子ども自身が持つことで、見通し（散歩に行く準備につなげるなど）を持てるようになっていけるように支援していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の始まりと終わりに、打ち合わせをする時間がなかなか取れない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さんの受け入れ時間と職員の持ち場につく時間が同じなため、とくに朝の打ち合わせの時間を設定することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週に一度のミーティング、保育園職員との打ち合わせの時間を確保し、何らかの理由で時間が取れなかったときにはメールでの情報の共有や、連絡、申し送りなどをしていく。 ・一日を始める前に見通しが持てるよう、日案・週案・月案の作成を通して情報を視覚化し、見直せるようにしておく。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・法人で定められた各種マニュアルの説明などを、保護者に向けて茶話会や個別で行っているが、年に一度の説明では、把握していただくことが難しいと感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容が多岐にわたっていて、実際に直面しないと意識しづらい点がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・該当する説明について、半年に一度の面談の中で再度行っていく。 ・日々の記録、月に一回発行のお便りでの情報提供をおこなう。 ・説明を受けた保護者さんに、ご家族皆さんへの情報共有をお願いする。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	恵の実「ホップくん」
------	------------

公表日 2025年 3月 31日

利用児童数 13

回収数 12

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1 2025年 3月 27日	12				<ul style="list-style-type: none"> ・静かに活動したいとき、冷えているときは（床暖房）ホップ様、普段は園庭など十分 ・確保されている ・人数に対しては十分確保できていると思う 		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	11			1	<ul style="list-style-type: none"> ・規定以上の人数でみてもらっている ・適切である ・数は適切だと思う。範囲での数は別の認識です。 	職員配置数は満たしており、活動やお子さんの様子によって支援方法を柔軟に変えている。例えば、あえて手は離すが目は離さないようにし、自分で考えて行動したり、仲間とのやり取りが生じたりすることを大切にしている。療育の意図が正しく伝わるよう、実際の療育場面の様子を撮影した動画を茶話会や面談、保育報告会などで保護者にお伝えしており、今後も継続して報告していく。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	11	1				<ul style="list-style-type: none"> ・あえて写真や表では示さずに、子どもに考えることもさせてあげている ・されている ・つばめの子でも判断できている 	段差を見て、自ら考えて身体を動かすことを大切にしているため、すべてをバリアフリーにはしていない。また、お子さんの様子を見ながら、必要に応じて工夫をしながら環境を構造化している。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	10	2				<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の職員さんの掃除で清潔を保っている ・広い空間で動きやすい ・きれいにしているとします。年末のすす払いでもきれいにしたいです。 	雑音で園庭遊びをするため、土や砂が足につき、テラスや園舎が汚れてしまうことがある。基本的に外から中に入る時は流水で洗い流して清潔にするようにしており、子どもたちにも習慣づけるよう声掛けや支援を行っている。怪我がある時には職員間で情報を共有し、草履や靴を履いて園庭に出るなど、対策を取っている。
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	12				<ul style="list-style-type: none"> ・大きい音、疲労がたまったときの過ごし方を一緒に考えて実行してくれている ・特性に応じて対応していただいている ・手厚く見てくれていると思います 		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	12					<ul style="list-style-type: none"> ・伝えていただいている通りの支援です ・合っていると思います 	
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	12					<ul style="list-style-type: none"> ・親が感じている、言語化が難しいことを計画に書いてくれている。モニタリングでしっかりと聞きとりして一緒に考えてくれる ・子どものことをよく分析作っていただいている ・定期で計画の面談をしてくれたり、入念に計画してくれていると思います 	
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	12					<ul style="list-style-type: none"> ・適切に設定されています ・思います。家族、家での過ごし方のアドバイスもくれている 	
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	12					<ul style="list-style-type: none"> ・やりとりファイルにも計画が入っていて、親も職員さんも見ながら支援してくれている ・計画的に支援いただいている ・思います 	

	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	11				<ul style="list-style-type: none"> ・クッキング、芋ほり、草すべりなど、たくさん活動があり子ども楽しんでいる ・日々様々なプログラムが設定されている ・活動がたくさんあり、固定化はされていません 	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	9	1	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園と同じ敷地で、常に対話できる ・交流会で充分にある ・3歳児ではないと思っています ・来年からはあると思っています 	日常的に法人内に隣接している保育園の子どもたちと交流しながら療育を行っている。また、他の地域の保育園の子どもたちとの交流は4歳児から行っている。
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	12				<ul style="list-style-type: none"> ・利用者負担の方法が変更になるときも丁寧に説明してもらった ・用紙により伝えていただいている ・面談で会話する場があり、丁寧に説明して頂きました 	
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	12				<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に読んで確認した ・説明していただきました ・面談で説明頂いています 	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	12				<ul style="list-style-type: none"> ・茶話会、ホップ交流(5月くらい)で話せる ・情報提供していただいている ・茶話会等が設けられています 	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	12				<ul style="list-style-type: none"> ・送り迎えの時、やりとりノートでできている ・やりとりノートや口頭で伝え合っている ・連絡ファイルや送迎時に会話してくれて教えてくれます 	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	11	1			<ul style="list-style-type: none"> ・年2回のモニタリングや毎日の送り迎えでもらえている ・適宜支援していただいている ・実施してくれています 	半年に一度の面談や茶話会、また、ご家庭からの要請や事業所からの必要性に応じて適宜面談を行ったり、送迎時やコミュニケーションアプリなどを使って助言するようにしている。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11	1			<ul style="list-style-type: none"> ・寄り添って支援いただいている ・寄り添ってくれていると感じます 	事業所でのお子さんの様子、ご家庭での様子を共有しながら、日々の送迎時や面談・茶話会などで親御さんの思いや困り事などを聞き取り、職員や事業所そのものへの信頼に繋げるようする。送迎時に話す時間が取れないご家庭とは、アプリや電話などのツールを使って恒常的にコミュニケーションを取っていく。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	11			1	<ul style="list-style-type: none"> ・ホップ交流会、もちつき大会などきょうだいも参加できるイベントがある ・きょうだいもイベントに参加してもよいなど配慮していただいている ・海の実施は交流の場として設けられています。家族参加のイベントも沢山あり、楽しく参加できてます 	行事や交流会への積極的な参加を促し、保護者同士の情報共有や交流の場を定期的に企画し、きょうだい児も楽しめるような内容を考えていく。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	12				<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いのとき、ちようちゃんや他の準備の順番やイレギュラーな保育(「森は生きている」など)など対応してくれている ・その通りです ・適切に対応頂いています 	
20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	12				<ul style="list-style-type: none"> ・時間をつくって丁寧に話してくれている ・その通りです ・タイミングは図ってくださいます 		
21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	11				1	<ul style="list-style-type: none"> ・インスタの投稿や、やまほどたりを楽しみにしています ・発信されていると思います ・時々、情報が遅いことがある ・バスターアプリで発信してくれています 	コミュニケーションアプリやメール、電話などを活用し、適宜情報を発信していくようにする。

	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	11	1		<ul style="list-style-type: none"> ・やりとりノートが、他の方に見えないようになど気をつけてくれている ・その通りです ・されていると思います 	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	11	1		<ul style="list-style-type: none"> ・バスターで感染症についてながしてくれている ・マニュアルの場所を教えてください ・避難訓練がされているのを知っています 	例年、年度初めの茶話会で説明している。欠席された方には個別でお伝えしている。また、保護者のどちらか1名にご案内することがほとんどであるため、ご夫婦で共有されていない場合があることがわかった。今後は説明の折に、ご夫婦で共有していただく旨をお願いしていく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	12			<ul style="list-style-type: none"> ・やまばとだよりで毎月〇〇訓練をしたとある ・その通りです ・避難訓練がされているのを知っています 	
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	11	1		<ul style="list-style-type: none"> ・バスターで門の施錠のことやここが壊れている工事など連絡をくれる ・会議などで十分、他の職員とも周知されている ・安全確保については「保育の方針」もあり確保できていますとは言えない 	茶話会や面談にて、当事業所におけるリスクマネジメントについて改めてご説明した。療育現場から、大きな事故につながりそうな要因は徹底して取り除く（誤飲に繋がるような小さな物の排除、アレルギー除去食の徹底、大型遊具の下や周辺にスコップや平均台などを置かない、など）。ただし、リスク回避ばかりを優先させ、子どもにとって学びの機会を奪ってはいないか、しっかり見極めることが重要であると考えている。子どもの「保護」と「学び」のどちらにも傾きすぎず、子どもの主体的な遊びが、たとえ失敗しても最小限の怪我で済むようにバランスを取って療育を実施していく。また、茶話会や保育報告会など定期的に子どもの発達と療育内容について具体的に事例をあげて報告し、当事業所の療育方針に対する理解、信頼を得るように努めていく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11	1		<ul style="list-style-type: none"> ・電話やお迎えの際、伝えてもらっている ・細かく報告されている ・説明は頂いてます。再発防止については「完璧」ではない 	事故が発生した際の状況について、再発しないように改善に取り組んでいる。また、上記25で示したように、当事業所のリスクマネジメントと療育方針を改めてご説明し、ご理解頂いた。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	12			<ul style="list-style-type: none"> ・「今日〇〇おる？」など職員さんにもなついている ・その通りです ・毎日楽しそうに通園しています 	
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	10	2		<ul style="list-style-type: none"> ・お友だちに会えること、活動など楽しみに通所しています ・いつも先生の名前を言ってくるかぁと楽しみにしている様子 ・とても楽しんで通所している ・ママと離れるのが不安で朝は泣けてしまいが、楽しんで行っています！ ・毎日楽しそうに通園しています ・ご利用のコースの遠いから、大好きなお友達と活動が別になってしまう日に、寂しくて朝から泣けてしまうことがあります。 	登園時には泣いてしまうこともあったが、担当職員との信頼関係を築き、事業所での楽しみをみつけ、楽しんで生活している姿がある。また、活動が別になっても、そこで楽しみや好きなお友達ができるように支援をしている。保護者に登園後の日々の様子を具体的にお伝えするようにしていく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	12			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自立できるよう支援していただいている ・満足します 	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		恵の実「ホップくん」				公表日	2025年3月31日
		チェック項目	はい		いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
			7	7			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7			・保育園とスペースを共有しあっており、工夫して支援されるようにしている ・どんな目的（保育計画）で使用するか決められている点	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7			・違う子どもにつき時は申し送りを必ずしている点（配置する場合は）	
	3	2025年 3月 27日	5	1		・こどもの状態に応じて、構造化した環境にしている ・脱衣場が物置化しており、今は身障者用トイレを利用する子どもがいないが、改善が必要だと思う ・感覚統合の観点から、あえてバリアフリーにしていない ・はいともいいえともいえない。活動に応じて工夫しながら、環境を考えていると思う。 ・自由に動き回って遊べる生活空間である点 ・気になった時などに工夫して配慮していると思う。子どもの様子を見て意識していく。	一人ひとりの発達段階に合わせて構造化を行い、子どもたちが見通しを持ちやすい環境を作ることで、子どもたちが安心して生活できるような環境を整えていくことは大切であると考え。他方、自分で選んだり、自発的に意思を伝えたりすることも重要であるため、構造化していない部分も多々ある。個々の療育計画に対応しているため、一様に回答しにくかったよう。今後は定期的に療育方針をパート職員も含めて丁寧な説明する機会を設ける。 脱衣所の物置化については不要なものは除去した。不用品が置かれていないか定期的にチェックし、職員への周知を行う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7			・職員の意識にかかわる ・安心できる空間の確保が重要にされ、職員も意識している点 ・意識して取り組んでいると思うが、個々が常に気にかけていることが大切だと思う。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7			・ホップ棟を利用することでできている ・職員間で情報共有してすぐに使用できる点 ・集中して行いたい活動（描画や制作など）の時、あたたかい環境（もしくは涼しい）で行いたい時、ホップ棟を使っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	1		・あまり意識してこなかった ・はいともいえない ・今年度はどうだったかな… ・定期的なミーティング等が行われている点 ・自分のことと同僚の働きについて、声をかけあって、負担ないよう、している。無意識にしている。組織だててやっていないが、ここでそれぞれやっている。困った時には、声を上げるよう、会議で確認し合っている。	定例会議の議題に組み込み、表やポストイットなどを使って実施するようにする。職員それぞれが意見を出し合えるようなプレストを行い、職員が個人の成長と事業計画・実施において主体的に参画している実感を持てるような会議内容にする。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			・評価表を会議で共有して内容の改善について皆で話し合い、その結果を実行しようとしている ・毎年2～3月に、職員・親さんと振り返り、次年度への改善につなげている ・改善点を職員間で共有できている点	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1		・適宜個別で話す機会を持ち、改善できるよう努めている ・ホップ会議の議題にはしばらく上げていなかった ・会議、ミーティングでの改善点等の話し合いがある点 ・キャリアアップシートにて ・面談をし、それを活かしている	上記6同様、定例会議に組み込み、業務改善につなげていくようにする。定期的な面談やキャリアデザインシートも活用していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7			・2023年度第三者評価があり、結果を会議で共有し、改善につなげている ・R?年度に実施 ・結果を見て共有している点	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7			・今年度は救命救急講習、LOOPさんによる講習を、企画実施した（事業所内） ・研修報告があり受講していない職員も話を聞いて学べる点 ・ウェブで参加できるものもあったので、ありがたかった。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			・年度はじめに公表、説明している ・公表とは？ ・子どもの発達等に合わせた細かな支援プログラムがある点	

適切な支援の提供	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6	1	・アセスメントは行ってあり、年度途中で監査があり、その結果から改善を行った。①計画案をアセスメント時に説明、保護者の希望も伺う。②アセスメント・保護者の希望を元に担当職員と支援会議を行って案を修正し完成させる ・年1回のアセスメントに加え、6ヶ月に1回のニーズの聞きとりを面談時に行っている ・保護者のニーズ、課題の分析する点（もう少し必要だと感じた）	左記の通り、業務改善を実施中。パート職員含め、業務のルーティーン定着化に努め、適宜支援計画を確認するように努める。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		・上記①②において関わる職員と検討している ・モニタリング会議、支援会議で複数の職員で検討している ・職員同士の検討（話し合い）ができています	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		・モニタリング会議での検討 ・忙しすぎてふり返れていなかった… ・共有し、アドバイスや意見を伝える、知ることができる点	月案ミーティングで確認することを議案に必ず入れる。ミーティング用の用紙のフォーマットに項目を追加する。クラスを超えて、交代で子どもを見合いながら時間を捻出する。
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		・どちらともいえない。個票が活用できていないケースもある。インフォーマルなアセスメントはなされており、刈りとりやミーティングで職員間で共有、それぞれに支援方法を検討している ・日々の記録、アセスメント用紙・モニタリング用紙にて確認している ・個々に合わせた支援等ができています	個票は、発達が見える重要な資料であり、モニタリング会議で共有していく。今後、効果的に活用する方法を皆で考えていく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		・支援をすることで子どもの姿がどう変わっていくのか（成長していくのか）まで考えられている点	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		・1つのクラスにとどまらず、合同で行ったり、ねらいをしばって行ったりしている。 ・モニタリング会議、クラスの刈りとりで行っている。 ・月案ミーティング ・定期的なミーティングにて立案できている点 ・クラスでの刈りとりや月案ミーティングの中でやっている	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		・固定化しないようふり返り、次回に活かしている ・様々なあそび（活動）を取り入れている点	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		・集団が難しい場合の小集団（少人数）が組み合わされている点	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	3	・立ち話などで適宜確認し合っている ・その日の前には刈りとりやミーティングで役割分担がなされていることが多い ・できたりできなかったりだが、初めてのことや安全配慮のいることなどは必ずしている ・朝のちょっとした時間や、ライン、日案で行っている。必ずではないが努力している。 ・連携はしているが、必ず打ち合わせをしているとはいえない ・必ず、ではないが、前日に行うなど工夫したり大事なことは必ず確認している ・情報共有、申し送り等を必ずしている点 ・必ずではないが、必要に応じて足りている。夏目：話せていないな、と思う。 年長：ラインの活用。	「その日行われる支援の内容や役割分担」については事前に共有されている。最低限、クラス毎の職員間の連携は毎朝行うようにする。	

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 必ず打ち合わせを行っているわけではないが、立ち話や休憩時間、ミーティングなどでふり返っている 共有はしているが、必ずとはいえない 必ず、ではないが、大事なことは必ず共有するようにしている その日の振り返りを職員間で行う点 なるべく話すようにしているが必ず毎日というわけにはいかない時もある。足りてはいる。 	集まってやる時もあるが、集まらない時には、LINEや書面で回覧するなど工夫していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		<ul style="list-style-type: none"> 記録を保護者へも共有している点 	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		<ul style="list-style-type: none"> 細かな観点で見直している点 	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		<ul style="list-style-type: none"> 生活やあそびの様子だけでなく、発達状況についてもよく理解し会議している点 	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> 相談センターからの見学依頼が増えている わからない 情報共有だけでなく、実際に話したり見学へ行ったりしている点 	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		<ul style="list-style-type: none"> こぼとコースの併用利用のお子さんの支援や就学に向けた情報が共有相互理解を図るよう努めている 併用の他事業所での生活の様子や日程等を共有していただき、どんな活動（保育）をしていくか考えられている点 	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達や生活の様子が分かりやすい点 	
	28	<p>事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。</p> <p>地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。</p>				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31	<p>(31は、事業所のみ回答)</p> <p>地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。</p>	1	3	<ul style="list-style-type: none"> 豊川市のセンターにスーパーバイズを行うような機能が整備されていない 訪問療育 連携はしているが助言は受けていない わからない 職員全員が助言等を受ける機会 	事業所の要望を管轄部署へ挙げていく。	
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7		<ul style="list-style-type: none"> 恵の実保育園との交流をしている 恵の実保育園、マルシェで関わる機会がある。 交流等を定期的に行っている点 		

	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	7		・やりとりノートにて些細なことでも気づいたことを共有し合える点	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		・茶話会など ・ZOOMでの会議を取り入れ、参加しやすくしている点	
保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	1	・初めて利用する方へ分かりやすい口頭ではない伝え方(説明)をしていく点	年度初めの茶話会で説明している。 ホームページに掲載したり、文書そのものをお渡ししたり、閲覧可能な状態にしてファイリングしている。 PPなどによるわかりやすい説明方法も検討していく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		・「12」に同じ ・面談時にニーズを聞きとるようにしている ・面談にて直接お話ししている点	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		・モニタリングの面談時にしている ・どのようにして計画ができ、保育していくのか説明している点	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		・茶話会、モニタリング面談時に相談支援の場を設けている ・口頭でなくてもやりとりノートでも悩み等相談できる点	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7		・茶話会・交流会・恵の実保育園保護者との交流(やまばとコースの実) ・茶話会、年3回のホップ行事にて、4月の交流会では、きょうだい児も含めた交流をしている ・学童さんも交えて日頃から交流する機会がある点	
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		・申し入れについて職員同士で(迅速に)話し合っている点	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		・やまばと便り、ラインにて。 ・情報だけでなく、日頃のおそびのようすがわかる写真等も見ることができる点	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		・必ず職員間で確認し合っている点	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		・説明を分かりやすく丁寧にしている点	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わった事業運営を図っているか。	5	2	・マルシェ ・地域住民を招待する機会があまりない点	地域の中学生ボランティアの受け入れを行っている。
非	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		・職員→会議にて、家族→茶話会や個別的に周知している。またファイリングしていつでも見られるようにしている ・たぶん ・訓練後の反省、改善点について考えられている点	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		・実際に子どもと非常食を食べてみたりしていた点	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		・講座の時間を設け学ぶ、実践できるようにしている点 ・園内に置いておくだけでなく、園外活動でも常に持ち歩いている	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		・医師の指示の元、対応してきた。 ・個別にどの子どもでも対応できるよう職員全員が周知できている点	

常時等の対応	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		<ul style="list-style-type: none"> 異物除去、救命救急研修 想定した訓練を行っている点（予防する）事故、ケガ 	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		<ul style="list-style-type: none"> 安全管理が十分できるよう分かりやすく対策等を伝えている点 	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		<ul style="list-style-type: none"> ヒヤリハットシートから会議等で伝えている点 	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		<ul style="list-style-type: none"> 日頃の保育から振り返って検討している点 園内での研修も少しずつ積み重ねていけたらよいと思う 	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> 今は該当者なし。虐待防止、身体拘束に関する研修で、周知はされている 今年度は対象児はいなかった。 きちんと説明会書きを計画に記載した上で、保護者へ伝えている点 	